

韓国における 日本モダニズム文学研究の現状と課題

2019. 7 於・九州大学

金泰暲

I. 韓国における日本文学研究

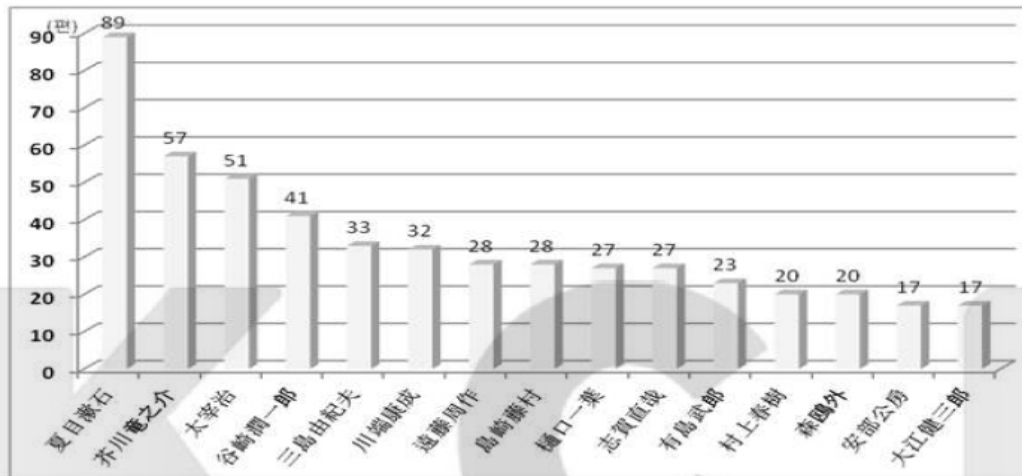
- 韓国における日本近現代文学研究の現状を概観

趙南星(2016)

일반대학원 일본어문학 관련 전공 석사학위논문(1974~2014년)의 주제 분석 125

〈그림13〉은 ‘근현대문학 소설 관련 석사학위논문수’를 나타내고 있다. 〈그림13〉에서 보면(776편×2.0%=16편 이상), 夏目漱石(89편), 芥川竜之介(57편), 太宰治(51편)¹⁰⁾, 谷崎潤一郎(41편), 三島由紀夫(33편), 川端康成(32편), 遠藤周作(28편), 島崎藤村(28편), 樋口一葉(27편), 志賀直哉(27편), 有島武郎(23편), 村上春樹(20편), 森岡外(20편), 安部公房(17편), 大江健三郎(17편) 등의 순서로 편수가 많다.

夏目漱石을 다룬 석사학위논문 편수가 가장 많은 것을 알 수 있다.



〈그림13〉 근현대문학 소설 관련 석사학위논문수

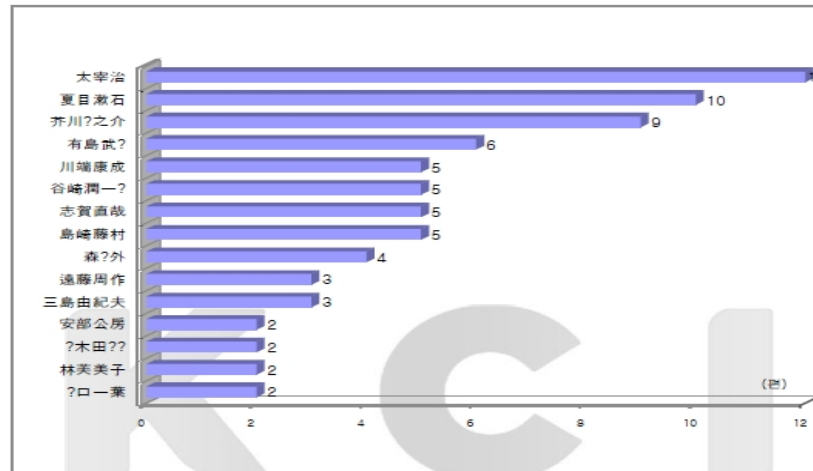
趙南星(2014)

4.6.3 근현대문학의 소설 관련 논문수

<그림14>('근현대문학의 소설 관련 논문수' 94편)에서 보면, 太宰治 12.8%(12편), 夏目漱石 10.6(10), 芥川龍之介 9.6(9), 有島武郎 6.4(6), 川端康成 5.3(5), 谷崎潤一郎 5.3(5), 志賀直哉

일본어문학 관련 전공의 박사학위논문(1994~2013년)의 주제 분석 407

5.3(5), 島崎藤村 5.3(5), 森鷗外 4.3(4), 遠藤周作 3.2(3), 三島由紀夫 3.2(3), 安部公房 2.1(2), 國木田獨步 2.1(2), 林芙美子 2.1(2), 樋口一葉 2.1(2) 등¹⁾의 순서로 비율이 높다.



<그림14> 근현대문학의 소설 관련 논문수

趙南星(2015)

4.2.9 소설 작가에 따른 연도별 편수

<표2>('소설 작가에 따른 연도별 편수')(54명, 206편)에서 보면, 夏目漱石 15.0%(31편), 芥川竜之介, 村上春樹 7.3(15), 遠藤周作, 谷崎潤一郎 6.8(14), 三島由紀夫 4.4(9), 太宰治, 樋口一葉 3.9(8), 安部公房, 大江健三郎, 森鷗外 3.4(7), 有島武郎, 川端康成 2.4(5), 志賀直哉 1.9(4), 江国香織, 司馬遼太郎, 吉本ばなな 1.5(3), 有吉佐和子, 井伏鱒三, 坂口安吾, 島崎藤村, 中野重治, 星新一, 堀辰雄, 松本清張, 村上龍, 夢野久作, 吉屋信子 1.0(2), 石牟礼道子, 井上光春, 宇野千代, 江戸川乱歩, 大岡昇平, 梶井基次郎, 菊池寛, 佐藤愛子, 椎名麟三, 瀬尾まいこ, 高浜虚子, 武田泰淳, 田中芳樹, 徳富蘆花, 中上健次, 永井荷風, 中島敦, 林芙美子, 二葉亭四迷, 三浦綾子, 宮本輝, 宮本百合子, 目取真俊, 山田詠美, 横光利一, 吉行淳之介 0.5(1)의 순서로 비율이 높다.

<표2> 소설 작가에 따른 연도별 편수

		연도(2003-2012년)별 편수 (편)										합계
		03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	
1	夏目漱石	6	4	3	2	2	1	5	1	3	4	31
2	芥川竜之介	6	2	2	1	-	1	-	1	1	1	15
3	村上春樹	2	2	1	1	2	1	3	1	2	-	15
4	遠藤周作	-	1	1	3	2	2	4	-	-	1	14
5	谷崎潤一郎	4	1	2	1	-	2	1	-	1	2	14
6	三島由紀夫	-	4	-	1	-	2	-	-	2	-	9
7	太宰治	-	-	-	-	1	1	2	2	1	1	8
8	樋口一葉	1	1	-	2	1	-	1	-	-	2	8

9	安部公房	2	1	-	-	1	1	-	-	1	1	7
10	大江健三郎	-	-	1	1	1	-	1	1	1	1	7
11	森鷗外	1	2	-	-	1	2	1	-	-	-	7
12	有島武郎	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-	5
13	川端康成	-	1	1	2	-	-	-	-	1	-	5
14	志賀直哉	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	4

Ⅱ. 韓国における 日本モダニズム文学研究

- 広義のモダニズム文学、狭義のモダニズム文学
- 川端康成を例に取り上げて考察

- 小説の翻訳。『雪国』を筆頭に「伊豆の踊子」『名人』『千羽鶴』『山の音』『眠れる美女』『古都』等の代表作や『掌の小説』編訳。
- 研究書として、『川端康成研究』『川端康成文学研究』『川端康成の文学世界』『川端康成の「雪国」研究』『川端康成の生死観に関する研究』『川端康成の文学と近代化』『深い象徴の森 川端康成の小説世界』等々。

- 横光利一の場合
- 小説の翻訳。『春は馬車に乗って(横光利一短篇集)』『上海』『紋章』
- 研究書は、翰林書房から出版された 金泰暲 (2014) 『横光利一と「近代の超克」—「旅愁」における建築、科学、植民地』を別にすれば、韓国で刊行された単行本はないのが現状

- それにしても、完備しているわけではないものの、それなりの紹介
- しかしながら、これらの紹介がモダニズム文学としての意義を十全に理解した上でのものであるとは言い難い
- 例に、『春は馬車に乗って(横光利一短篇集)』所収の「機械」

横光利一「機械」翻訳

- 横光の代表作の一つである「機械」(『改造』1930年9月)は数回にわたり翻訳
- 最近の翻訳が『春は馬車に乗って(横光利一短篇集)』(고지연訳、知恵、2012年)に収録されたもの
- この本は横光の初期作品を主な対象にし、韓国国内に初紹介のものも含まれていて、その翻訳出版の意義は大きい。

<圖4> 「機械」韓國語訳



<圖5> 「機械」日本語原文



- <図4>は韓国語に翻訳された「機械」の一部。<図5>は「機械」の日本語原文。問題は、段落と段落との間に無意味な「一行開け」が施されている点。
- 小説「機械」の文学史的意義を完全に無視したことで、日本モダニズム文学に対する理解の狭さを露呈。横光の「機械」はいわゆる「意識の流れ」技法を日本で初めて試みたもので、漢字・ひらがな・カタカナという三つの表記体系の運用から、日本語はそもそも一行開けが要らないゆえに、「意識の流れ」を段落のレベルで行なった実験。
- 形式主義文学論争の過程でプロレタリア文学陣営を相手に、「形式」の一次性と重要性を強力に主張した横光利一の問題意識が、新たに試みた文学実験であった新心理主義文学にも継承されているのは当然。

<圖5> 「機械」



<圖6> 李箱 「地圖의暗室」



- <図5>は「機械」の日本語原文。これと李箱の小説「地図の暗室」(『朝鮮』1932年3月)を並べてみよう。一目にも<図4>よりも、かえってこの<図6>の方が<図5>の翻訳だと思えるくらいに両者の形式的類似性が直ぐに分かる。
- この小説はハングル専用で書かれたものであるが、ハングルに必須の「一字明け(띄어쓰기)」原則を破壊し、句読点を無視している。つまり「意識の流れ」技法を文章のレベルで試みたのだと言える。
- このような実験を通して、李箱は「伝統秩序の象徴界への反抗」と同時に「韓国語の文法の秩序を酷使させ、混乱させる」(김성수, 1999)のに成功している。

Ⅲ. 日本モダニズム文学の全体像

- 小説作品そのものの翻訳紹介の継続
- 文学時評や評論など理論的な資料の翻訳紹介が必要

関連の先行研究

- 이금재(1995) 「요코미츠 리이치의 문체: <문장길이> <문말> <접속어> <접속어에 호응하는 부사>를 통하여」
- 이금재(2003) 「요코미쓰 리이치의 문학: 신감각과 표현을 중심으로」
- 김정훈(1997) 「요코미츠 리이치의 문학적 '전향'에 관한 연구: 서구문학의 수용 및 극복과정을 중심으로」
- 김정훈(2016) 「일본 모더니즘 문학에 나타난 신감각과 신심리주의의 단절과 연속: 요코미츠 리이치 『상해』의 텍스트 분석을 중심으로」

関連の先行研究

- 유재신(2008) 「가와바타 야스나리의 「파란 바다 검은 바다」론: 신감각파적 사상과 문장 표현」
- 김태경(2012) 「横光利一文芸理論の同時代性—形式主義文学論争と日本資本主義論争との交錯」
- 김태경(2017) 「근대일본의 도시대중사회화와 문화의 변용」
- 오세인(2017) 「한일 근대 문학에 나타난 '감각' 개념의 비교 연구」

日本モダニズム文学に関する基礎資料研究および、 これを活用した李箱文学の創意融合的研究

- まずは、日本モダニズム文学を代表できる評論そのものの厳選。これまで充実しているとはいえない日本モダニズム文学の全貌を明らかにする資料を厳選し、翻訳や解題の作業が行われる必要がある。
- その上に、李箱を始めとする韓国近代文学の再解釈。単なる影響関係に回収されない模倣とパロディーの力学が作用する遂行的な主体として李箱文学に新たな光を当てる。

参考文献

- 趙南星(2014)「일본어문학 관련 전공의 박사학위 논문(1994-2013년)의 주제 분석」『東北亞文化研究』40輯、東北亞細亞文化学会
- 趙南星(2015)「일본문학 전공 석사학위논문(2003-2012년)의 주제 분석」『東北亞文化研究』42輯、東北亞細亞文化学会
- 趙南星(2016)「일반대학원 일본어문학 관련 전공 석사학위논문(1974-2014년)의 주제 분석」『日本語教育研究』34輯、韓国日本語教育学会
- 김성수(1999)『李箱소설의 해석』태학사